

業連だより

11月14日業務連絡会議が実施された。冒頭、理事長より、9日の天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典に参加し、行事を見て感動した。素晴らしい企画と運営だった。我々も企画運営はプロだが感心した。陸海空自衛隊も参加させてもらってよかった、との言葉があった。

報告事項として、事務局長山越理事から、令和2年度事業計画作成方針(案)の報告があった。2年度は昨年度の事業の進め方を踏襲した。文頭に「将来検討委員会における検討方向に準拠し」と入れ、最後に「新たな態勢への円滑・着実な移行に留意する」と記し、態勢移行に着手することを明確にした。また、この際以下に、財務状況改善のため、普通会员、法人・家族会員などの入会促進を図る一方、事業は必要最小限にするという意味で「予算収支の一層の改善」の文言を入れ、これにより会員数や資産などの「会務運営基盤の縮小を最小限に止め」と記述した。

10月10日に行われた全国会長会同について同じく事務局長から報告。慰霊行事、自衛隊に対する協力、入会促進などについて意見交換をし

た。また各地偕行会との協力要領及び支援基準などを示して理解を得た。各地偕行会へは、部隊との接点があり、退職前の教育など支援の機会を通じ偕行社の認知度を高めるとともに現職自衛官との一体感を醸成するよう務めてほしいと要望した。

10月11日に行われた総会について事務局長から報告があった。参加者205名で昨年とほぼ同様。奥村専務理事から会務報告がなされた。

11月17日に行われた塩田前副理事長お別れの会について事務局長から報告があった。

将来体制検討の成果について専務理事から報告があった。偕行社の地位・役割を明示してその方向性について説明し、質疑応答があった。

11月7、10日の文化祭について、厚生委員長小山田理事より報告があった。円滑な運営ができたが、出展者数、来訪者数など例年より若干減少した。

偕行社、隊友会、水交会及びつばさ会の4団体による政策提言について中川安全保障委員から説明があった。提言は新大綱、中期防の具現化推進という基本方針でまとめた。陸自の視点からの提言は入れにくいところもあり、そろそろ偕行社独自の政策提言を考える時期ではないか。